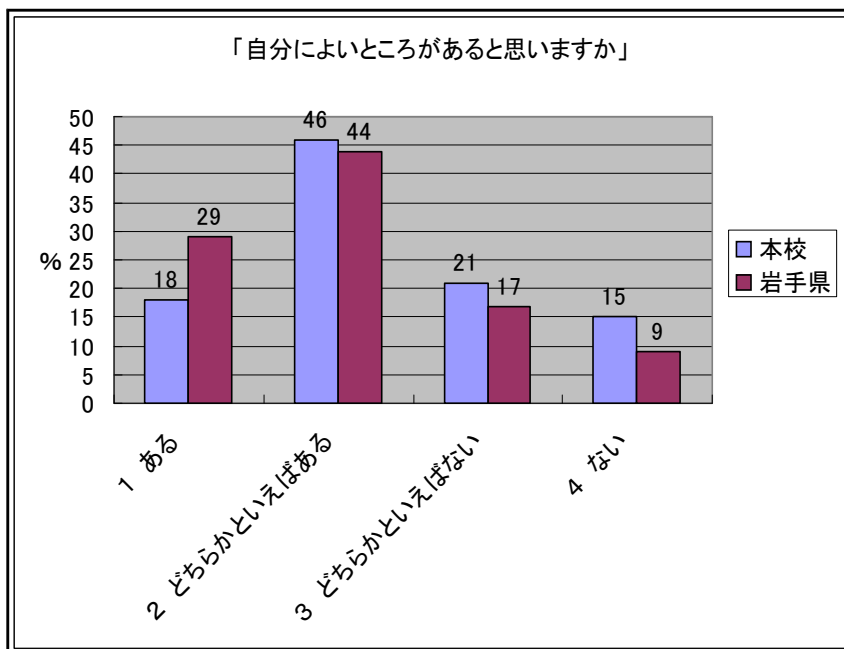


## 子どもの自尊感情を育てる



先日、久慈市学校保健研究大会に参加しました。会場で配られた資料の中に、〇〇産婦人科医院長で本校の学校医でもある〇〇先生の「自尊感情と健康」という題のプリントに目がとまりました。親にとっても教師にとってもとても大事なことが書かれていましたので要約して紹介します。

- 自尊感情とは、「自分自身の存在や生を基本的に価値ある事として認め、自分自身を大切に思える気持ち」である。
- これまでの研究から、「自尊感情が低いと学業や仕事に対する意欲が低く、低学力で薬物依存、10代の妊娠、非行や犯罪が多くなる。高すぎると権威主義に陥り目下の人とうまく付き合えなくなる。」ようである。
- 自尊感情には、他人との比較で「とてもよい」と考える優越性を重視する見方（社会的自尊感情）と自分なりの満足感を重視する見方（基本的自尊感情）がある。
- 基本的自尊感情はあるがままの自分自身を受け入れ、自分をかけがえのない存在として丸ごとそのままみとめる感情で、すぐには強くならないが一旦できると強靱で長続きする。
- 社会的自尊感情が強くなりすぎると自己主張するだけの子どもに育つことがわかっている。
- 基本的自尊感情を向上させるためには、家庭での親や養育者の役割が甚大であり、特に母親の影響が大きいことがわかっている。無条件の愛情をたくさんそそぐことで基本的自尊感情は強くなっていく。子どもを肯定的に受け止めることが大切である。



左のグラフは、今年度実施した「全国学力・学習状況調査（6年）」と「岩手県学習定着度状況調査（4年、5年）」の質問紙調査の結果から抜き出しました。

4年生から6年生の各学年における平均比率を単純合計し3で割った数値なので各学年の実態とは少し異なりますが、本校児童を平均的に捉えると、県平均と比較して「自分を肯定的に受け止める児童が少なく、否定的に捉える児童が多い」と言えます。

一人一人の子どもを他人との比較ではなく、その子なりの努力や満足、納得を大切に、子どもの自信を育てながら、基本的自尊感情を向上させていきたいですね。